

# 令和5年度 こどもっと保育園 自己評価

目指すこどもの姿

生き生きと遊ぶこども  
心も体も健康なこども

目指すこどもの姿に向けて  
保育方針

- ①一人ひとりを大切に
  - ②環境を通して行う保育
  - ③保護者の子育てを支援する
- 3つの方針の中で特に、子どもたちが主体的に遊び、生活していくための環境について、各クラスの代表と主任によるチームで研究を進めていった。保育の中で計画し、実践後振り返りを行うことにより、子どもの姿や反応を共有し考察を深めることができた。

年度の初めに環境研究会として何をしていくかを話し合い、0歳児はおもちゃ・1歳児はわらべ歌・2歳児は絵本、と各クラスでテーマを決めて、テーマに沿ったものを保育に取り入れ、子どもの姿を観察したり振り返りをしたりしながら1年間取り組んだ

年齢ごとの目標における環境の視点

●いちご組  
保育者やともだち、また物とかかわりながら、自分の世界（興味、関心）を広げていく。

●りんご組  
保育者に親しみ、感情を素直に表現して元気よく過ごす。友だちに関心を示しかかわりを持つようになる。

●バナナ組  
さまざまな体験を通して、主体的に遊び生活する。

## 0歳児

●おもちゃ 食事の時に使うスプーンに繋げていけたら良いなという思いから“すくう”動きを遊びに取り入れた。園庭で遊ぶ時に一緒にショベルで砂をすくったり、いちご組用のキッチンを作ったところレングを持っておはじきなどをすくったりする姿が徐々に増えていき、食事でもスプーンを持つことに慣れてきた姿をみて、遊びが生活に繋がっていることを実感した。年度後半はりんご組の部屋へ行く機会が増え、いちご組にあるものよりもレベルの高い玩具や細かい玩具に触れ、意欲や好奇心を持つきっかけになった。

## 1歳児

●わらべ歌 秋季に“どんぐりころちゃん”のわらべ歌の歌詞を壁に貼ったことで、クラス内で実践する機会が増えた。秋が終わって年が明けた頃にも公園でどんぐりを見つけると“どんぐりころちゃん”を歌う姿があり、繰り返し保育の中で歌ったことで、子どもたちも覚えたのかなと思った。“うまがはしれば”のわらべ歌を取り入れた際は、一人ずつしかできないけれど、待てば自分の順番が来ると予測する力が身に付き順番を待つことが少しずつ出来るようになったと感じる。絵本を通して覚えた“あぶくたつた”では、子どもたちが手を繋ぎみんなで楽しむことが出来た。2歳児と一緒に活動の時“ちんちろりん”のわらべ歌遊びを経験する機会が持てた。

## 2歳児

●絵本 絵本を新たにクラス内の本棚へ置く際に保育者がみんなの前で読んだ本に対しては、そうしなかった本に比べて本棚に置いてからの興味や関心がより強いように感じた。保育への取り入れ方に工夫をすることは大切だと改めて思った。季節の本を多く用意し、こまめに入れ替えを行った。かたつむりの本を梅雨時期に見ていた時も興味を持っていたが、その後、秋に本物のかたつむりがバナナに来てから再び本を出すと、絵本と見比べて同じことを見つけたり本物を観察してから絵本を確認したりと以前見ていた時以上に興味が膨らんでいるようだった。

3つのテーマをクラス別で主に取り入れてきたが、どのクラス、どのテーマでも、遊びと生活面や社会性とは一続きであり、目で見るだけや言葉で伝えるだけでなく実際に遊びの中で体験することで子どもたちの学びが深まることを強く感じた。保育者自身が環境の一部であることを意識しながら、子どもたちへ環境が与えるものの重要性を理解し設定していくことの大切さを学んだ

